

2004年10月26日

各位

自然災害による被災歴史遺産保全活動への支援募金のお願い

歴史資料ネットワーク

わたしたち歴史資料ネットワークは、阪神・淡路大震災発生直後の1995年2月に、関西に拠点を置く歴史学会を中心に、震災で被災した歴史資料保全のために結成された阪神大震災対策歴史学会連絡会からスタートいたしました。若手を中心に大学教員や院生・学生、史料保存機関職員、地域の歴史研究者などがボランティアとして参加する団体で、1996年に歴史資料ネットワークと改称し、2002年5月には市民と歴史学会による組織として会員制に移行し、現在に至っています。

これまで、鳥取県西部地震や芸予地震、宮城地震などの際にも被災地へ多くのボランティアを派遣し、地震発生直後から活動を開始し、現地での地域歴史遺産保全体制づくりに大きな成果をあげています。今年の夏には、福井等での水害や、度重なる台風による地域歴史遺産に対する被害が生まれました。特に中四国地方では、広島・岡山・山口・香川・愛媛など、近畿地方では兵庫・三重などで人的・住宅的被害が多く報告されています。史料ネットは、「福井史料ネットワーク」の発足への援助と募金、台風による被災状況の掌握と関係学会や自治体への情報伝達などをすすめてきました。

また、10月23日には、新潟県中越地域において、最大震度6強の地震を観測し、本震並みの大きさの余震が現在も続いています。死者も20名を越え、避難者も10万人近くに達するなど、大きな被害がでています。不自由な生活を余儀なくされている被災者の皆様に、お見舞い申し上げますとともに、一日も早いライフラインと生活の復旧をお祈り申し上げます。

このように、今年は全国各地で同時多発的に被害がでています。これまでの活動とは異なり、全国の被災地へ被災状況を調査するという事態に直面しています。活動に参加するボランティアに対しては交通費・宿泊費・ボランティア保険料など必要最小限の補助をしたいと考えています。

特に水害の場合、泥水に史料が浸かっているために廃棄されるケースは一般に多く、また水損史料はゴミ処理・残土処理が進むとともに廃棄されるスピードもより速いと考えられます。さらには、災害救助法が適用された地域を中心に住宅再建支援金が支給されると建物の解体が進み、水損から免れた史料であっても新たに廃棄される可能性も出てくると思われ、被災史料の確認・保全活動を一刻も早く進める必要があります。

つきましては、被災した地域歴史遺産の救出・保全活動の必要性については是非ともご理解を賜り、現地の地域歴史遺産保全活動を支えるための募金をおよせいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

自然災害による被災歴史遺産保全活動支援募金（郵便振替）

口座番号：00930-1-53945

加入者名：歴史資料ネットワーク

【問い合わせ先】

歴史資料ネットワーク 代表 奥村 弘（神戸大学助教授）

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1 神戸大学文学部内

電話・FAX： 078-803-5565（平日午後1時から5時）

URL： <http://www.lit.kobe-u.ac.jp/~macchan/>

e-mail： snet@lit.kobe-u.ac.jp